

全般季節予報支援資料 1か月予報

2025年5月22日

予報期間：5月24日～6月23日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

特に注意を要する事項

東・西日本では、期間の前半は気温の変動が大きいです。

出現の可能性が最も大きい天候

北日本では、期間の前半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

東・西日本では、期間の前半は、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

全般1か月予報

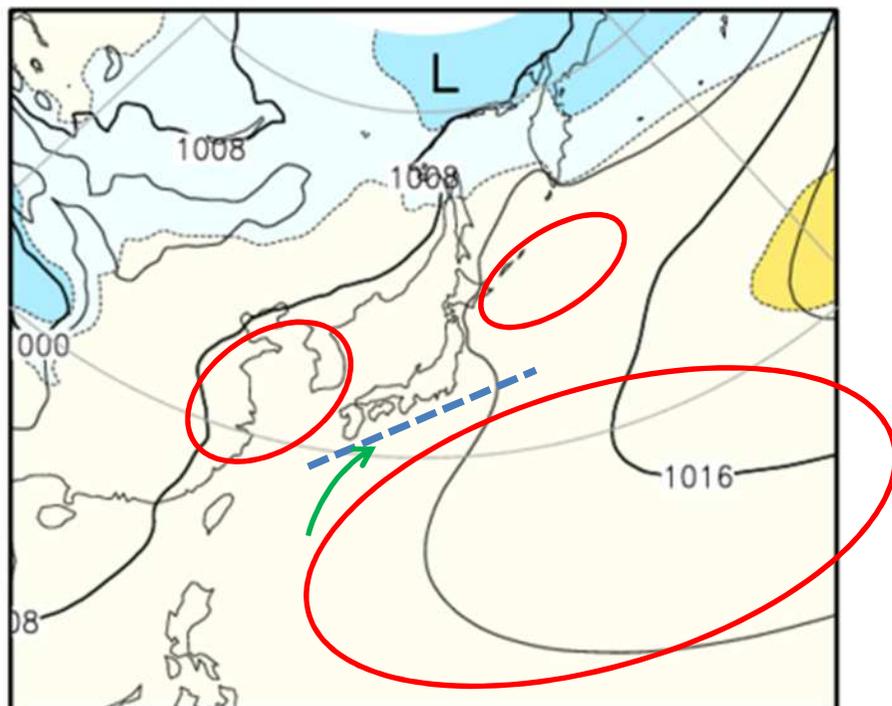
1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低並高	少並多	少並多	少並多
北日本	日本海側	10:30:60	30:40:30	30:40:30	
	太平洋側		30:40:30	30:40:30	
東日本	日本海側	20:40:40	20:40:40	40:40:20	
	太平洋側		20:40:40	40:40:20	
西日本	日本海側	20:40:40	20:40:40	40:40:20	
	太平洋側		20:40:40	40:40:20	
沖縄・奄美		20:30:50	30:40:30	30:40:30	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3~4週目(%)
	低並高	低並高	低並高
北日本	20:50:30	10:30:60	20:30:50
東日本	60:30:10	20:30:50	20:30:50
西日本	60:30:10	20:30:50	20:30:50
沖縄・奄美	30:50:20	10:40:50	10:30:60

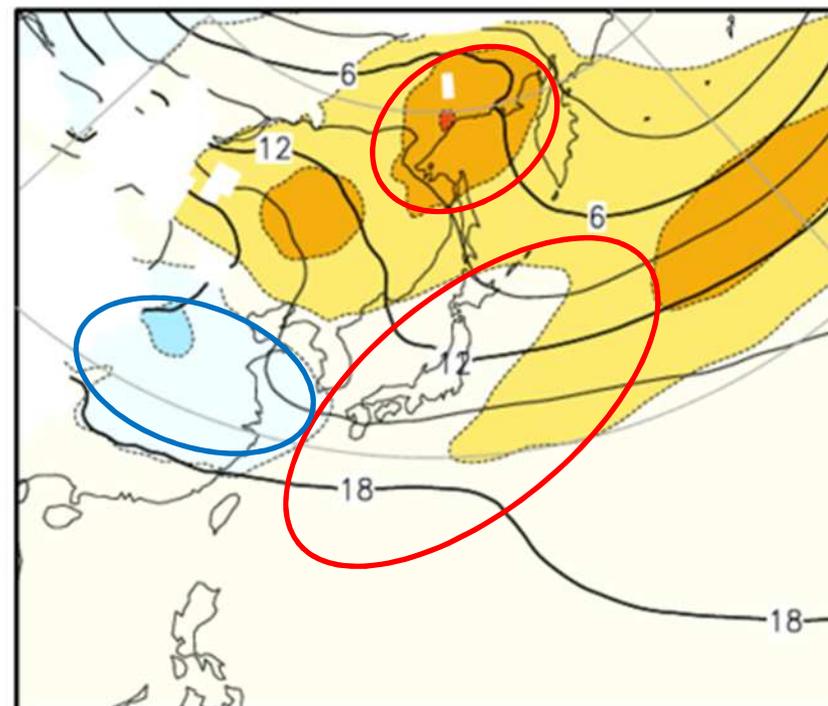
全般予報のポイント

- ・向こう1か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため、北日本と沖縄・奄美で高く、東・西日本では平年並か高いでしょう。また、東・西日本では、1週目は寒気の影響を受けやすいため気温は低くなりますが、その後は暖かい空気に覆われやすいため高くなり、期間の前半は気温の変動が大きいでしょう。
- ・東・西日本では、前線や湿った空気の影響を受けやすいため、向こう1か月の降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込みです。

海面気圧(1か月)



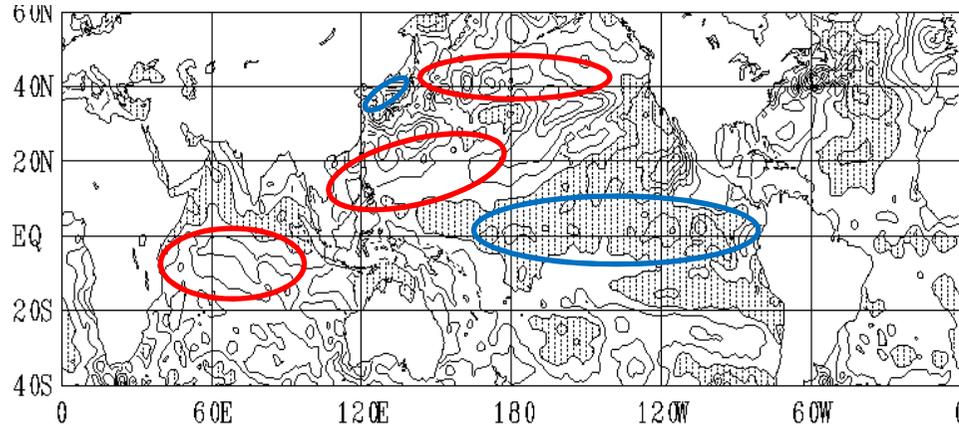
上空約1500mの気温(1か月)



1か月平均の海面気圧(左図)は、黄海付近と北日本付近で高いほか、日本の南でも高いと予測されています。一方、間に位置する本州南岸付近では、気圧の谷が予測されています。このため、東・西日本を中心に前線や高気圧の縁辺を回る湿った空気の影響を受けやすい時期があるでしょう。

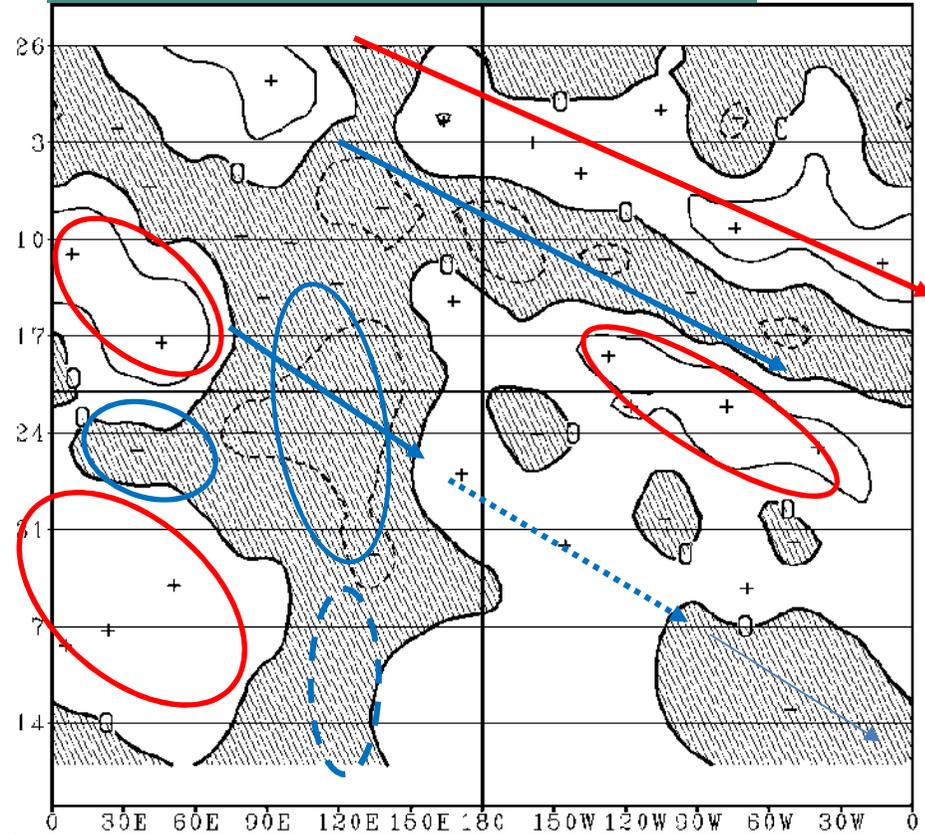
上空約1500mの気温(右図)は、華北から黄海付近では低い一方、カムチャツカ付近と日本の南で平年より高いと予測されています。このため、日本付近では、平年より高く、暖かい空気に覆われやすい見込みです。

SST偏差



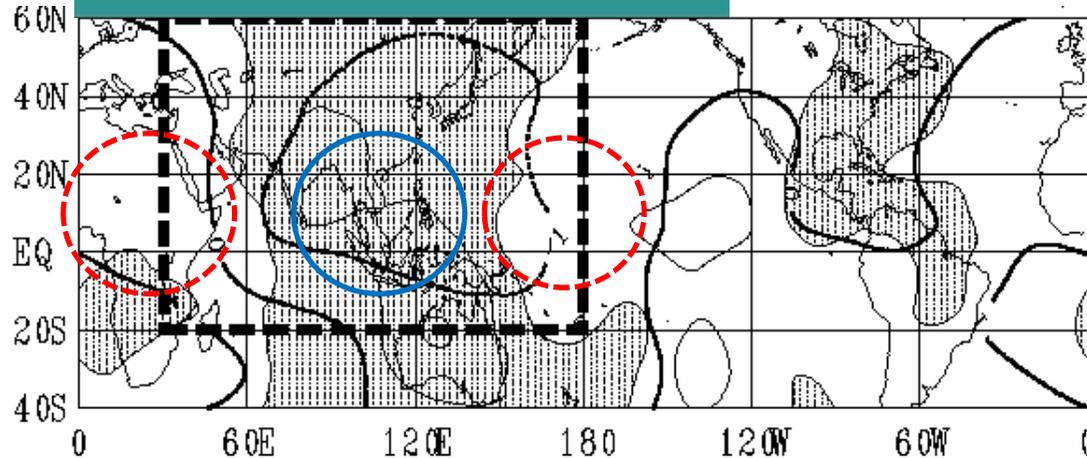
熱帯域では、インド洋と南シナ海からフィリピンの東にかけて正偏差。一方、太平洋中部から東部で負偏差。日本付近では、日本海中部と西部で負偏差、日本の東で正偏差。

200hPa速度ポテンシャル偏差



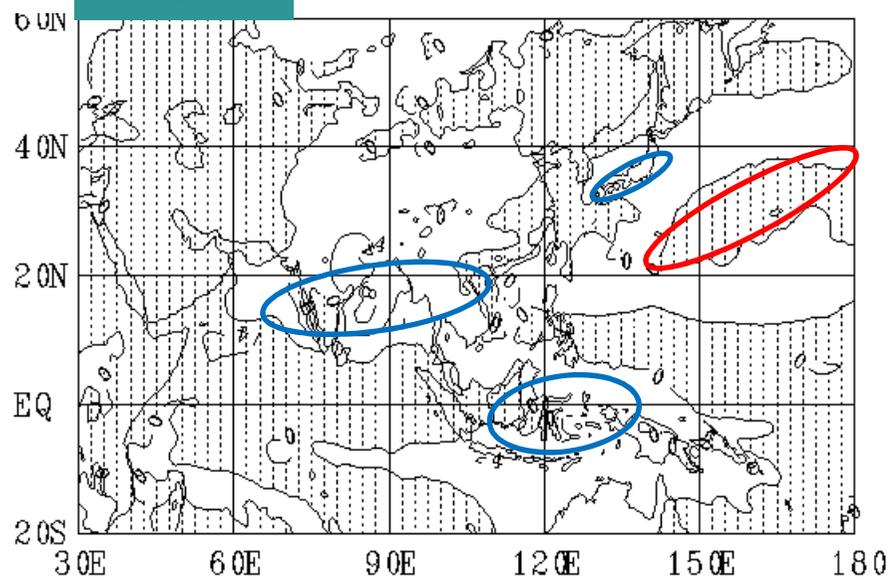
1週目は、インド洋とインドネシア付近で対流活動が活発、2週目は、インド洋では対流活動が不活発。3～4週目は、インド洋では対流活動は次第に活発化するほか、インドネシア付近でもやや活発な状態が続く。

200hPa速度ポテンシャル



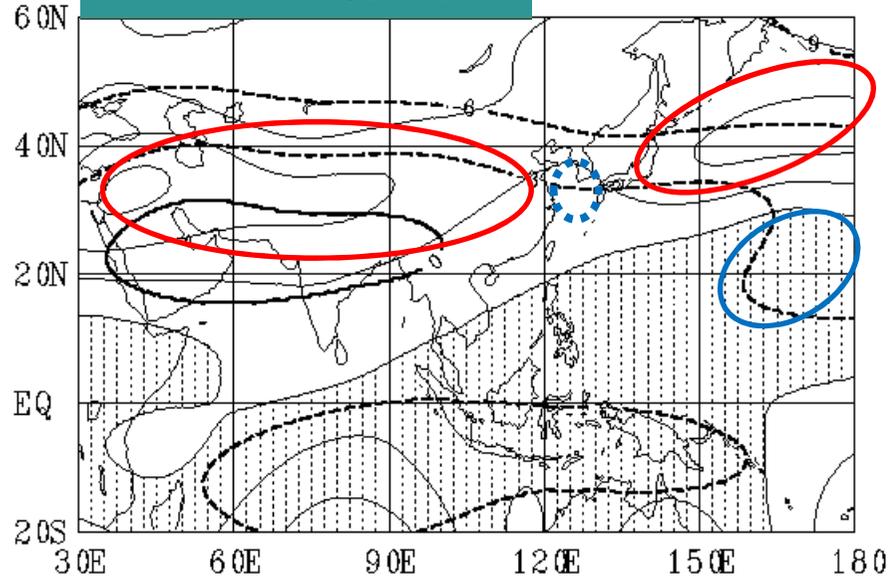
アフリカ付近で上層収束偏差。
また、インド洋東部からフィリ
ピン付近にかけて上層発散
偏差、日付変更線付近では
上層収束偏差だが、平年か
らの隔たりは小さい。

降水量



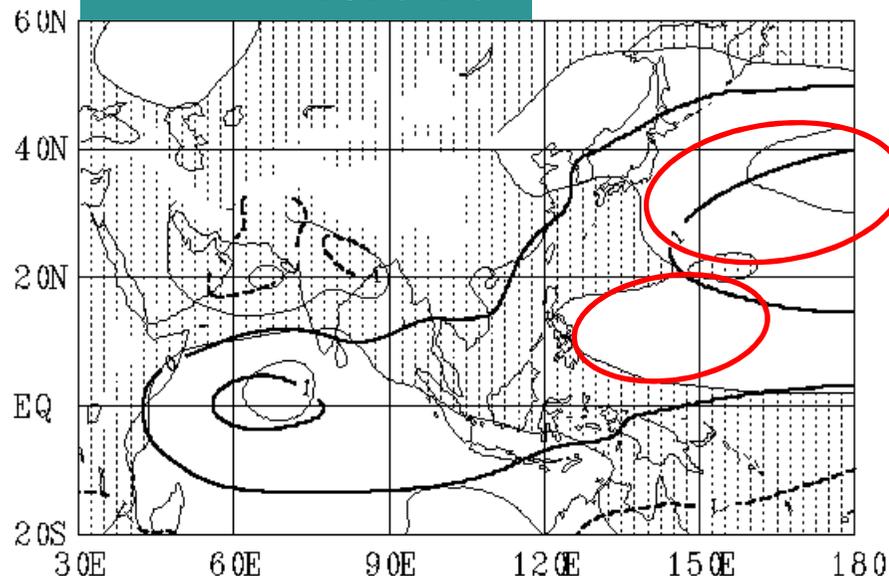
インド付近から東南アジア付近
にかけてと、インドネシア付近
で多雨偏差。日本の南東で少
雨偏差。日本付近で東・西日本
を中心に多雨偏差。

200hPa流線関数



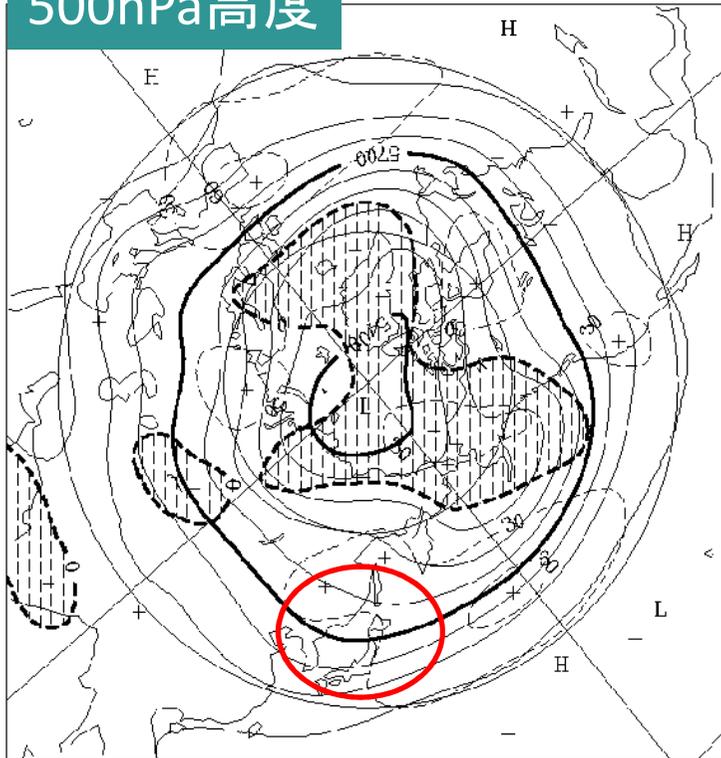
アラビア半島から華中付近にかけて高気圧性循環偏差、黄海付近には相対的な低気圧性循環偏差、日本の東を中心に高気圧性循環偏差、日本の南東に低気圧性循環偏差。

850hPa流線関数



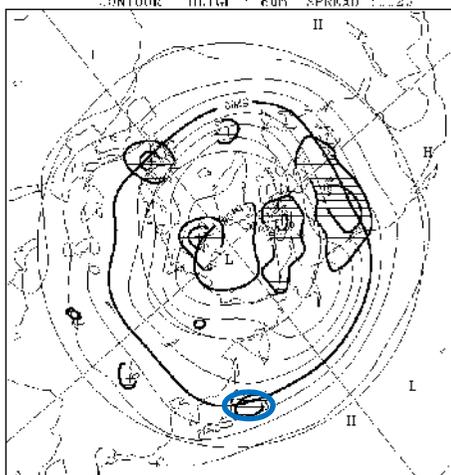
日本の南東海上を中心に高気圧性循環偏差。フィリピンの東にも高気圧性循環偏差。熱帯の季節内変動に伴うインドから東南アジア付近にかけての対流活動の活発化で、夏のアジアモンスーン循環が強まる時期があることを予測。

500hPa高度

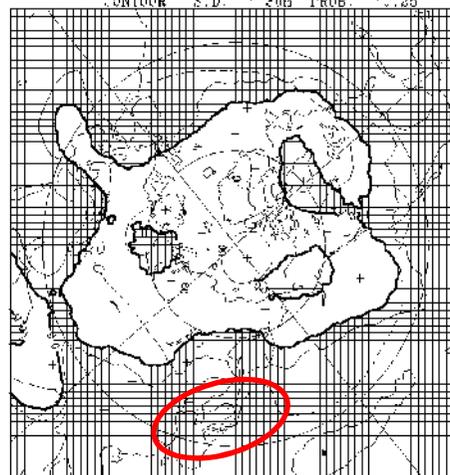


500hPa SPREAD AND HEIGHT

PROB. OF H. ANOMALY AND S.D.



CONTOUR HEIGHT: 600m SPREAD: 10.25

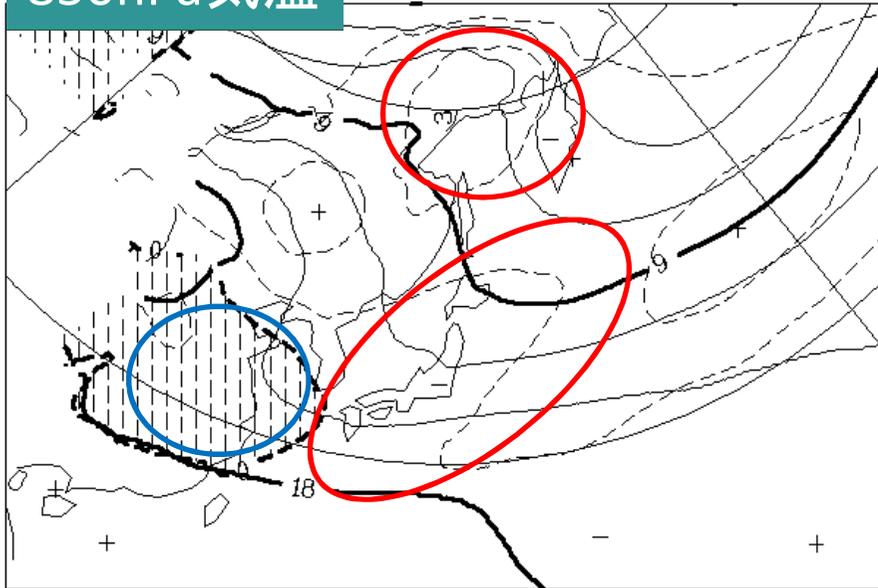


CONTOUR S.D.: 30m PROB.: 0.25

日本を含む広い範囲で正偏差。
日本の東で高度が高く、日本
付近は西谷。

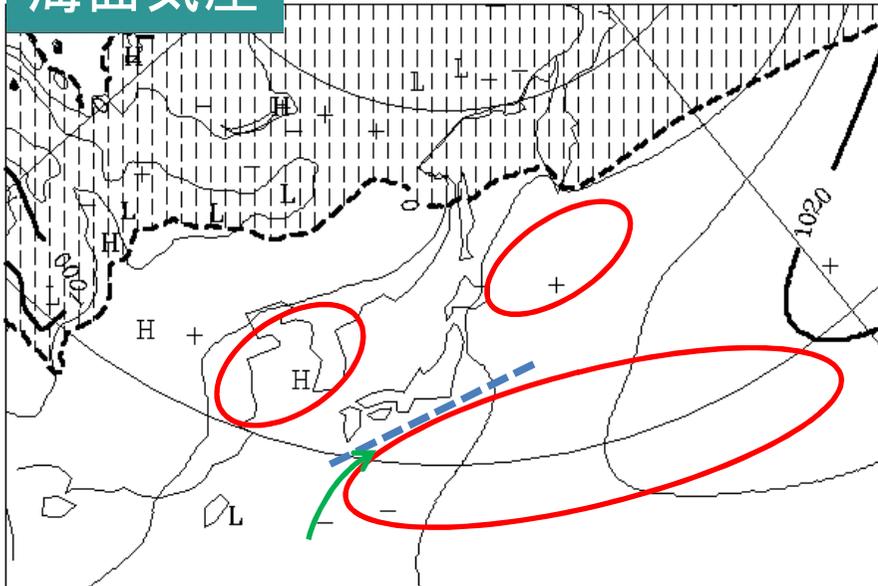
日本を含む広い範囲で正の高
偏差確率50%以上の領域に
覆われる。
日本付近には、スプレッドの大
きい領域がみられ、不確実性
が大きい。

850hPa気温



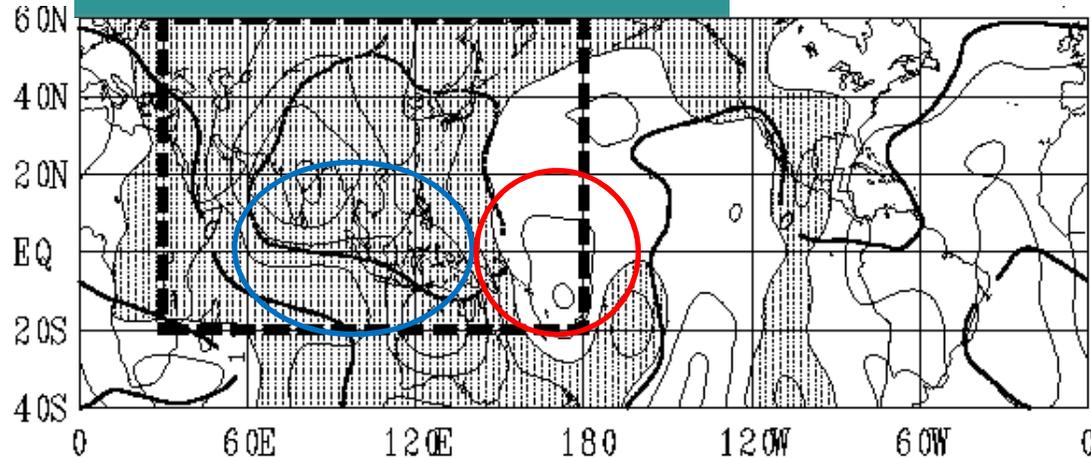
華北から朝鮮半島付近にかけて負偏差、一方、オホーツク海付近では正偏差。日本付近は正偏差域に覆われる。

海面気圧



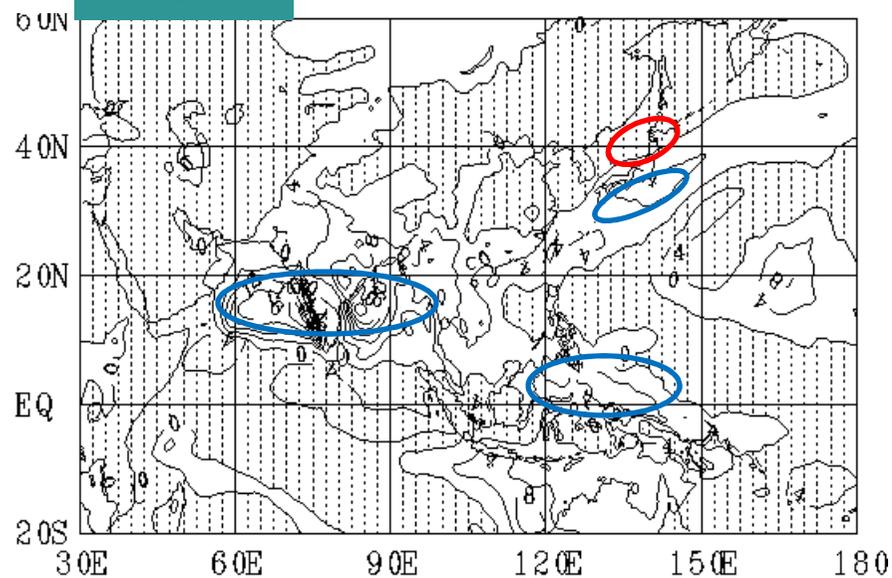
黄海付近と北日本付近に高気圧があるほか、日本の南にも高気圧があり、その間に位置する本州付近では、前線や湿った空気の影響を受けやすい時期がある。

200hPa速度ポテンシャル



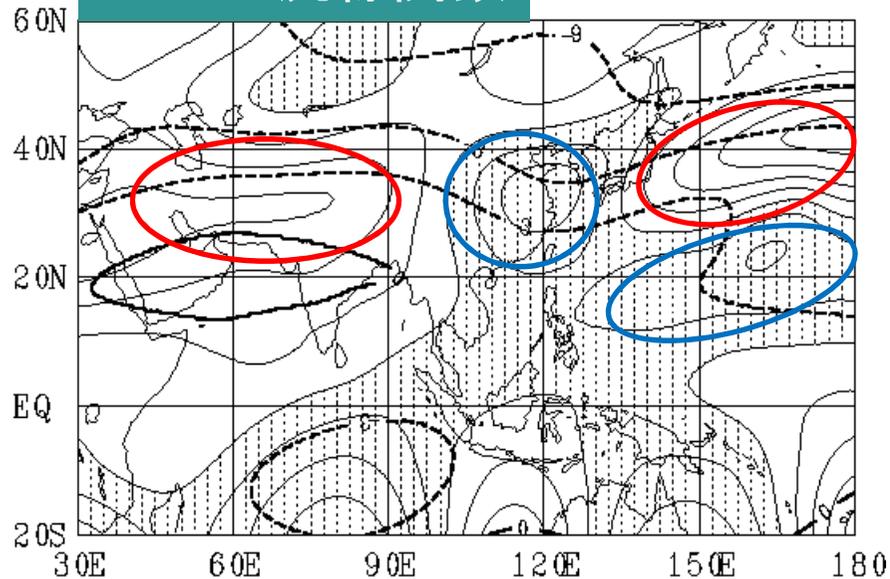
インド洋北部からインドネシア付近にかけて、上層発散偏差、フィリピンの東から日付変更線付近にかけて、上層収束偏差。

降水量



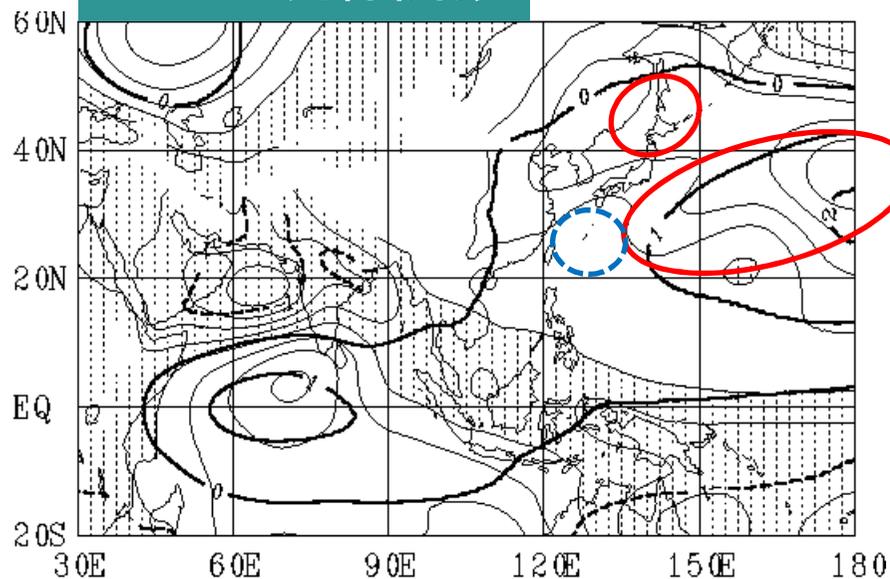
アラビア海からベンガル湾付近にかけてと、インドネシア付近で多雨偏差。日本付近では、本州南岸付近では多雨偏差の一方、北日本付近では少雨偏差。

200hPa流線関数



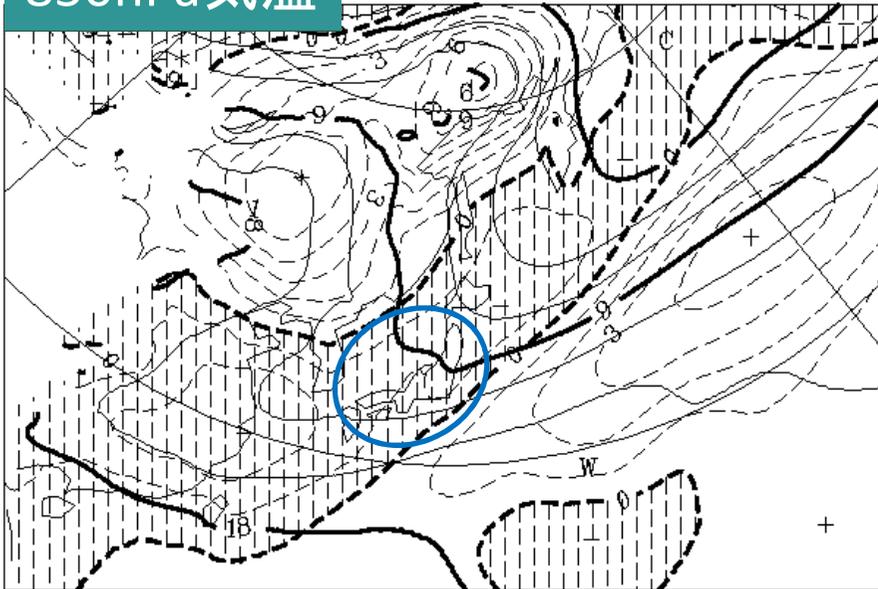
アラビア半島から中央アジア付近で高気圧性循環偏差、華中付近で低気圧性循環偏差、日本の東で高気圧性循環偏差、日本の南で低気圧性循環偏差。

850hPa流線関数



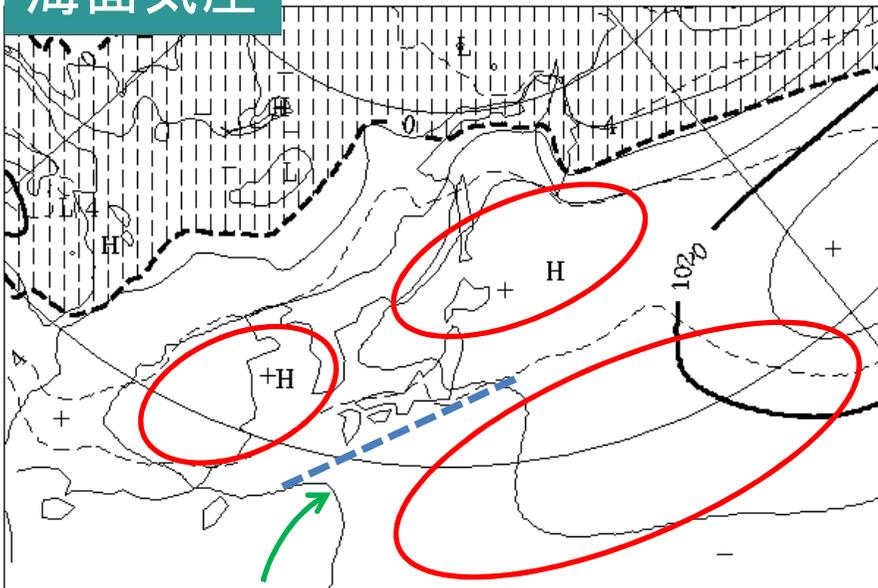
日本付近では、北日本付近と日本の南東海上に、それぞれ高気圧性循環偏差。沖縄・奄美付近では、相対的な低気圧性循環偏差。

850hPa気温



東・西日本を中心に負偏差。

海面気圧



黄海付近と千島付近に高気圧があり、北日本では、オホーツク海付近の高気圧に覆われやすい。一方、日本の南東海上には高気圧があり、沖縄・奄美から本州南岸付近にかけて、気圧の谷となっており、東・西日本や沖縄・奄美では、前線や高気圧の縁辺を回る湿った空気の影響を受けやすい。

想定される天候

- ・ 北日本と東・西日本日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
- ・ 東・西日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、前線や湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。
- ・ 沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

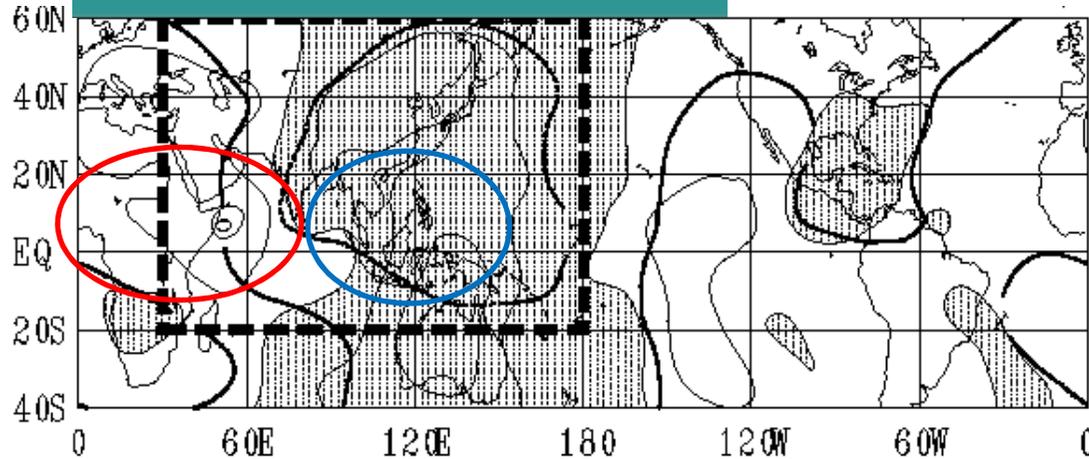
<気温>

東・西日本で低温、北日本と沖縄・奄美では平年並。

<天候>

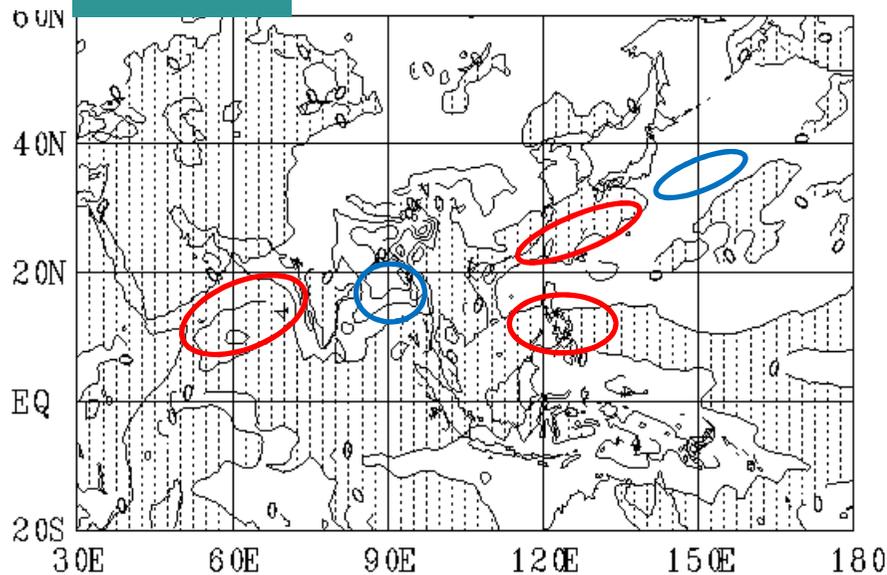
- ・ 北日本では、高気圧に覆われやすいため、やや少雨・やや多照。
- ・ 東・西日本日本海側では、前線や湿った空気の影響による一雨が多く、多雨傾向だが、太平洋側に比べ前線から遠いため、やや寡照。
- ・ 東・西日本太平洋側では、前線や湿った空気の影響を受けやすいため、多雨傾向・寡照傾向。
- ・ 沖縄・奄美では、前線や湿った空気の影響をやや受けやすいため、やや多雨・やや寡照。

200hPa速度ポテンシャル



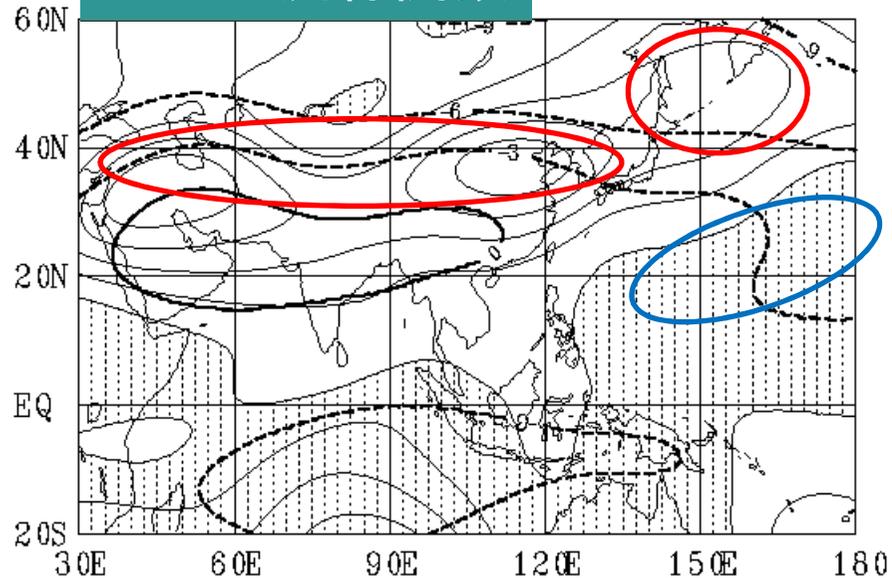
アフリカ大陸付近で上層収束偏差、インド洋東部から東南アジア付近にかけて、上層発散偏差。

降水量



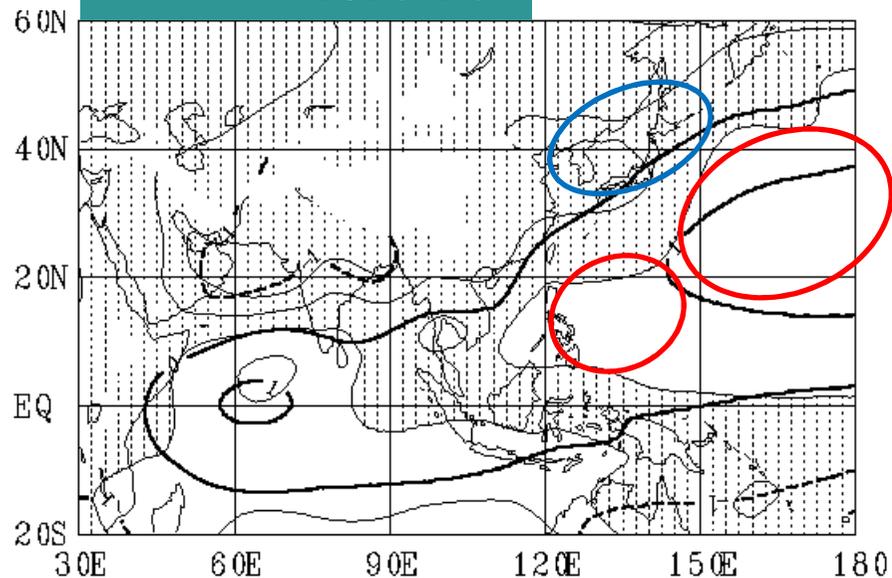
アラビア海とフィリピン付近で少雨偏差、ベンガル湾付近で多雨偏差。日本付近では、東シナ海付近に少雨偏差、日本の南東海上で多雨偏差だが、平年からの隔たりは小さい。

200hPa流線関数



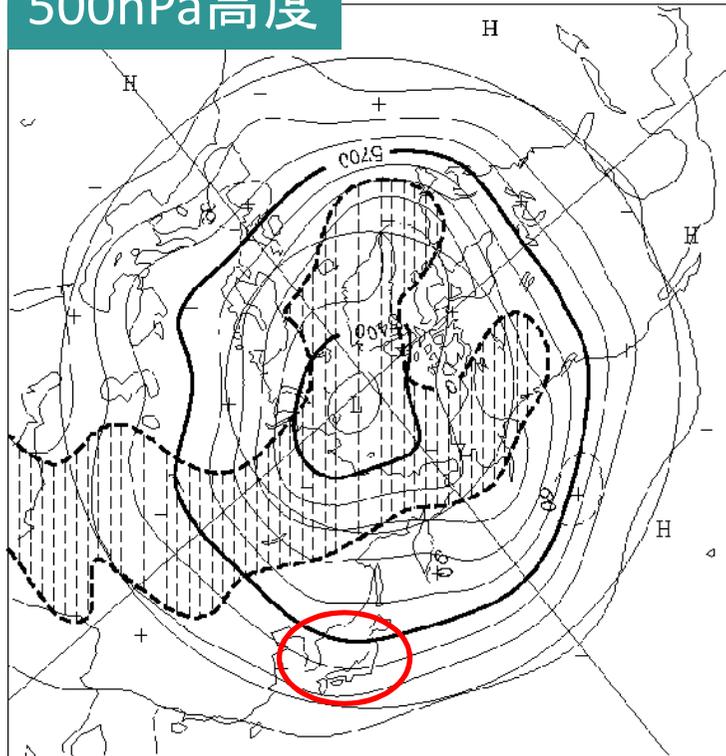
ユーラシア大陸とオホーツク海
付近に高気圧性循環偏差。日
本の南東に低気圧性循環偏差。

850hPa流線関数



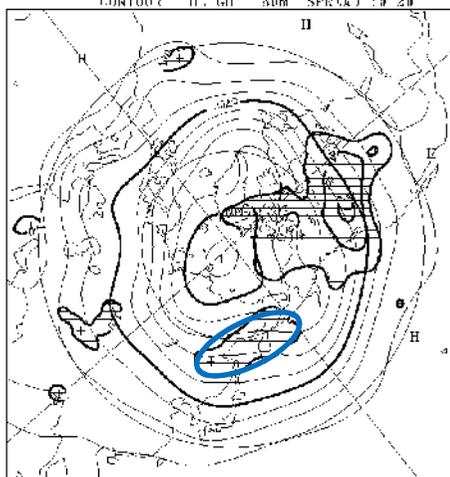
日本の南東海上を中心に高気
圧性循環偏差、フィリピンの東
でも高気圧性循環偏差。日本
付近では、低気圧性循環偏差。

500hPa高度

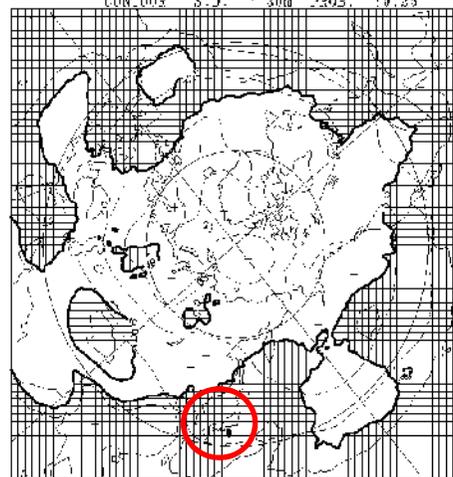


500hPa SPREAD AND HEIGHT

PROB. OF H. ANOMALY AND S.D.



CONTOUR HEIGHT 80m SPREAD 0.20

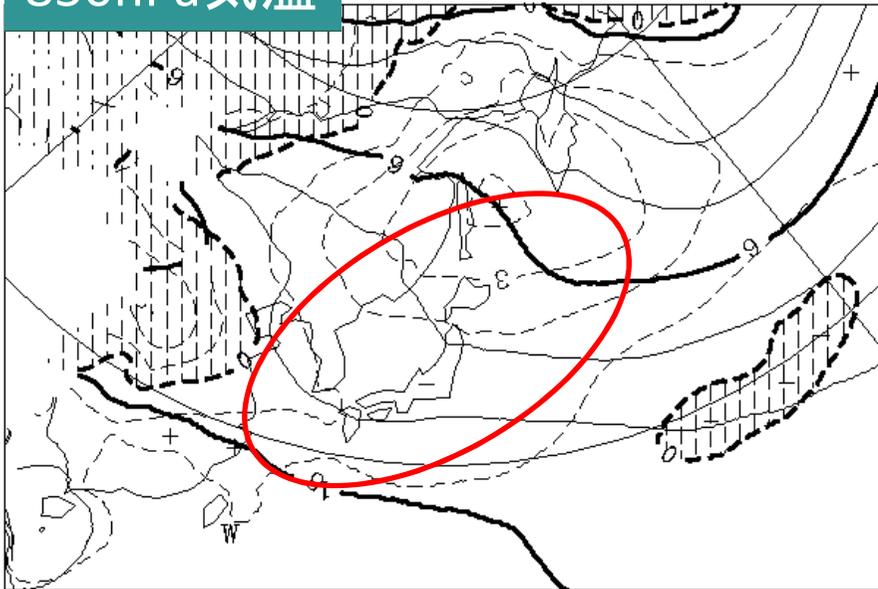


CONTOUR S.D. 3000 2000 0.25

日本付近では、正偏差。

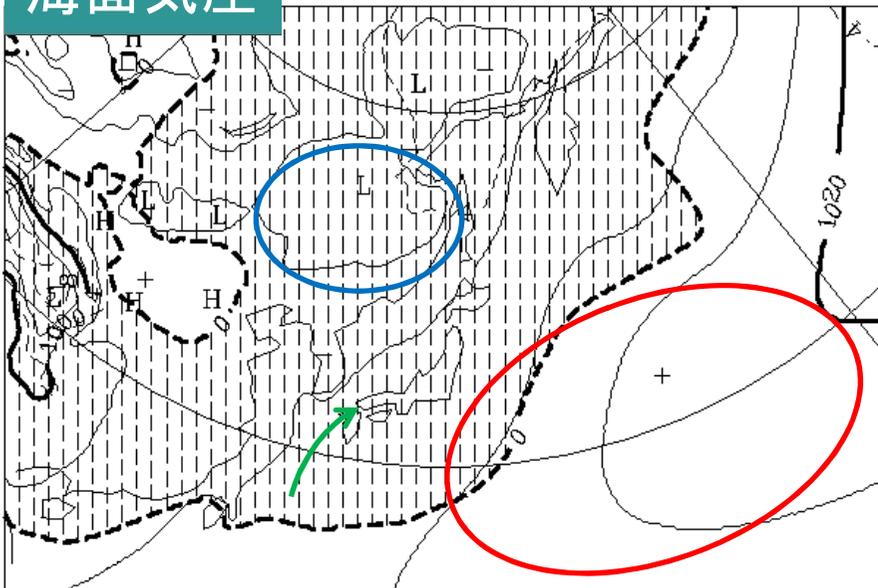
日本付近は、正の高偏差確率50%以上の領域に広く覆われる。
日本付近では、スプレッドの大きい領域がみられ、不確実性が大きい。

850hPa気温



日本付近は、オホーツク海付近を中心に正偏差。

海面気圧



沿海州付近に低気圧、日本の南東海上に高気圧がある。日本付近は負偏差、特に北日本では低気圧の影響を受ける時期がある。また、東・西日本では、高気圧の縁辺を回る湿った空気の影響を受けやすい。

想定される天候

- ・ 北日本と東・西日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
- ・ 東・西日本日本海側では、天気は数日の周期で変わりますが、湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。
- ・ 沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

<気温>

全国で高温。

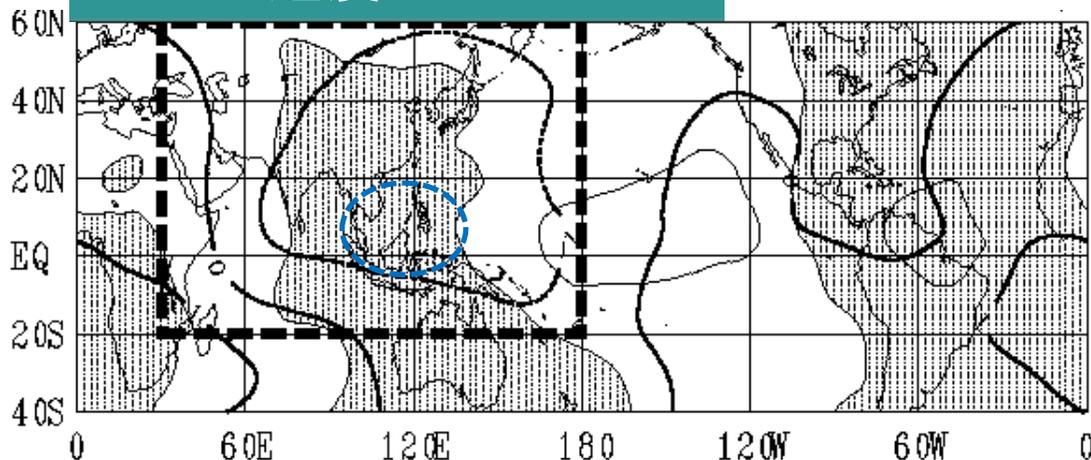
<天候>

北日本日本海側では、低気圧の影響をやや受けやすいため、やや多雨・やや寡照。

北・東・西日本日本海側では、湿った空気の影響を受けやすいため、やや多雨・寡照傾向。

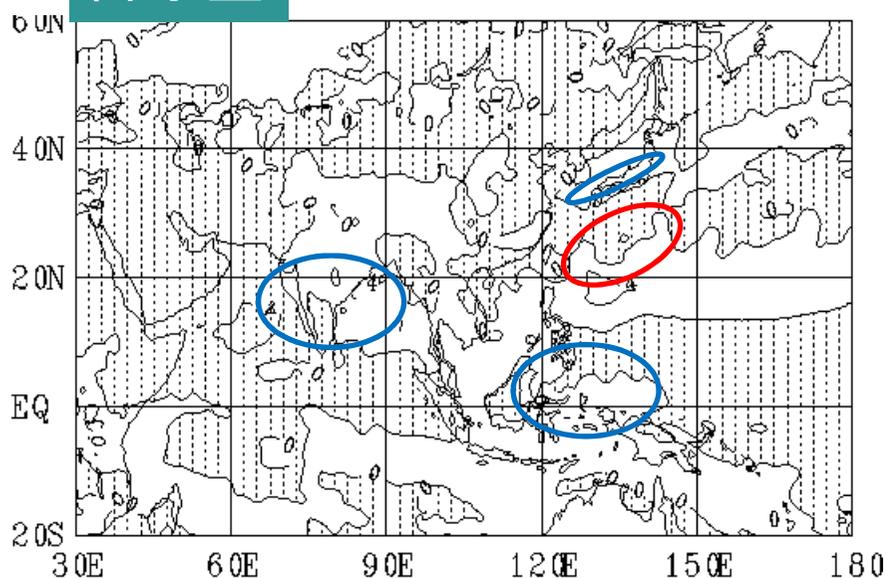
北日本太平洋側や東・西日本太平洋側では、湿った空気の影響を、やや受けやすいため、やや多雨・やや寡照。

200hPa速度ポテンシャル



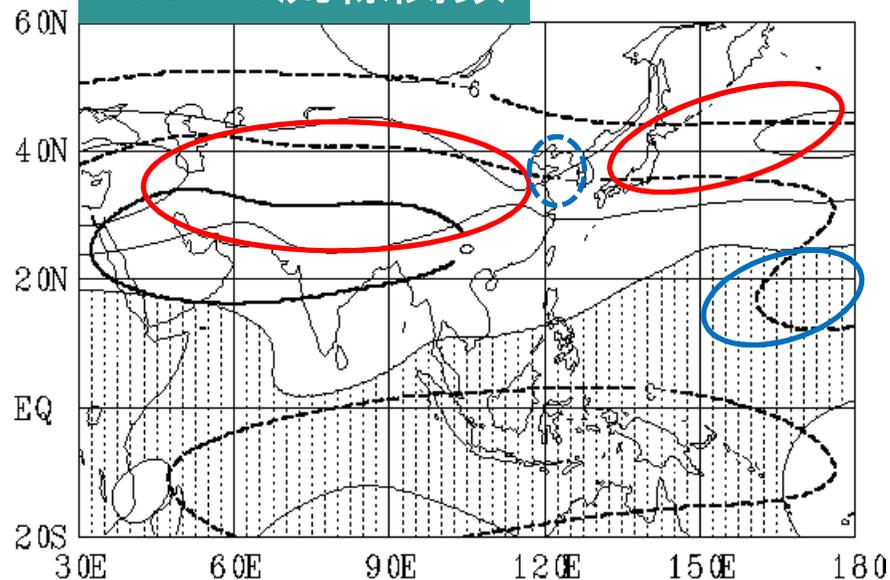
インドネシア付近で上層発散偏差だが、平年からの隔たりは小さい。

降水量



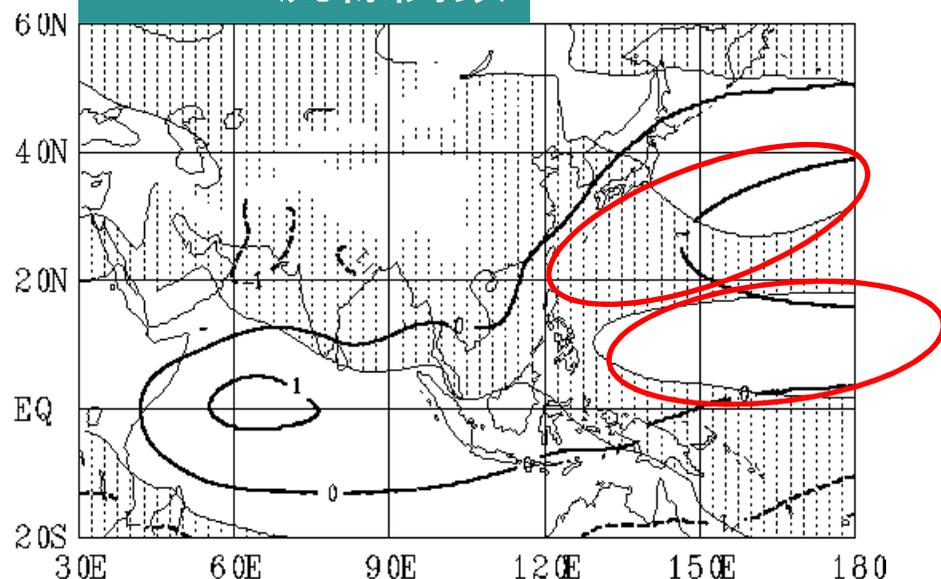
インドとインドネシア付近で多雨偏差。日本の南で少雨偏差。日本付近では、本州付近を中心に多雨偏差の一方、日本の南で少雨偏差だが、平年からの隔たりは小さい。

200hPa流線関数



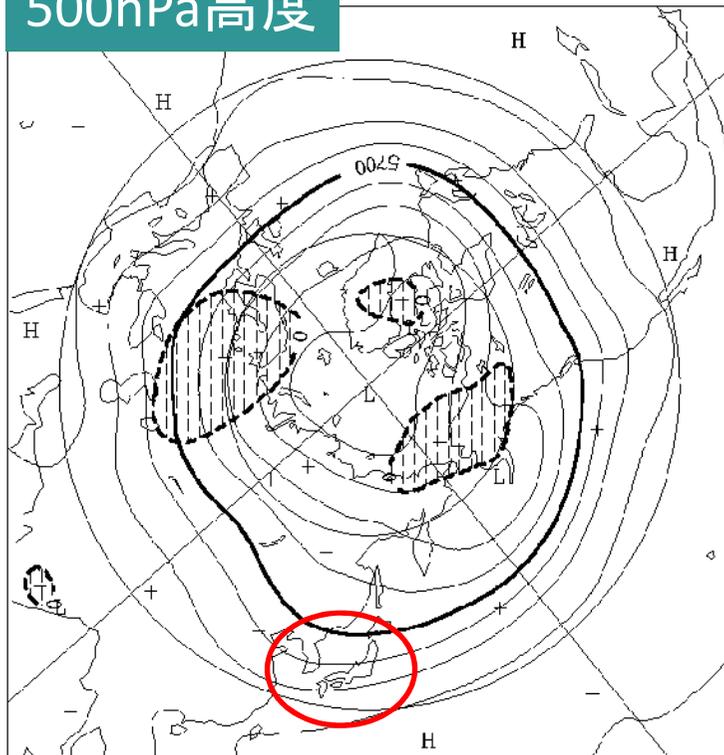
中央アジア付近で高気圧性循環偏差、黄海付近に相対的な低気圧性循環偏差、日本の東を中心に高気圧性循環偏差。また、日本の南東に低気圧性循環偏差。

850hPa流線関数



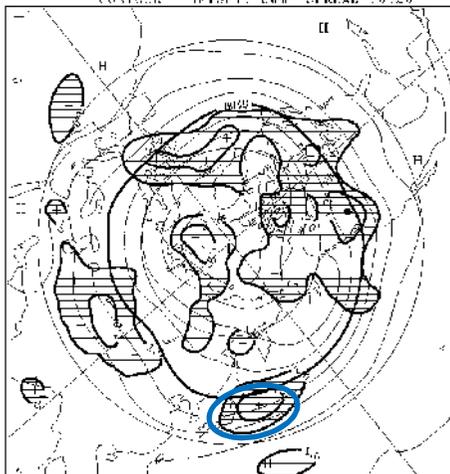
日本の南東海上とフィリピンの東に高気圧性循環偏差。

500hPa高度



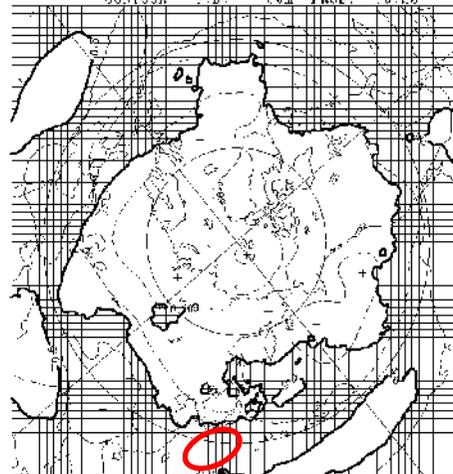
500hPa SPREAD AND HEIGHT

CONTOUR HEIGHT: 60m SPREAD: 0.20



PROB. OF T. ANOMALY AND S.D.

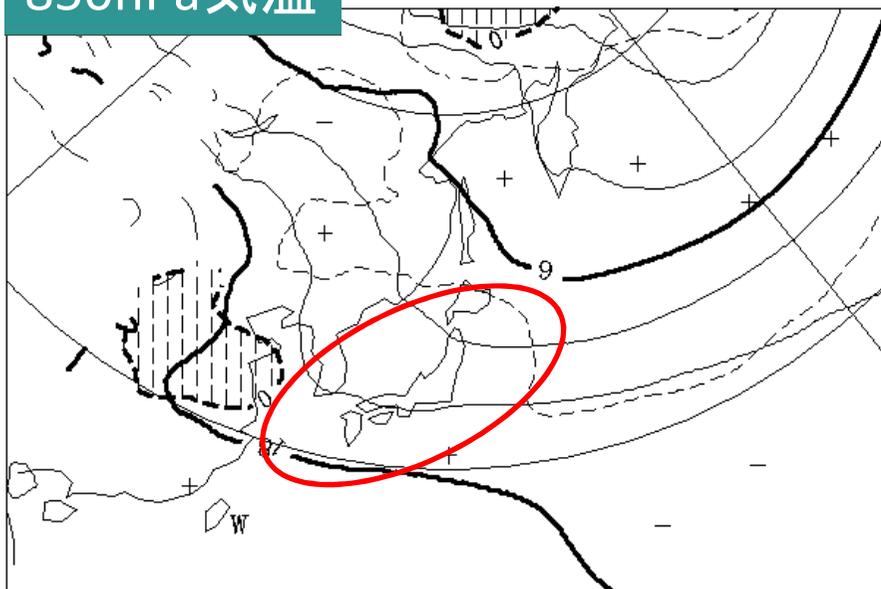
CONTOUR S.D.: 20m PROB.: 0.25



全国的に正偏差。

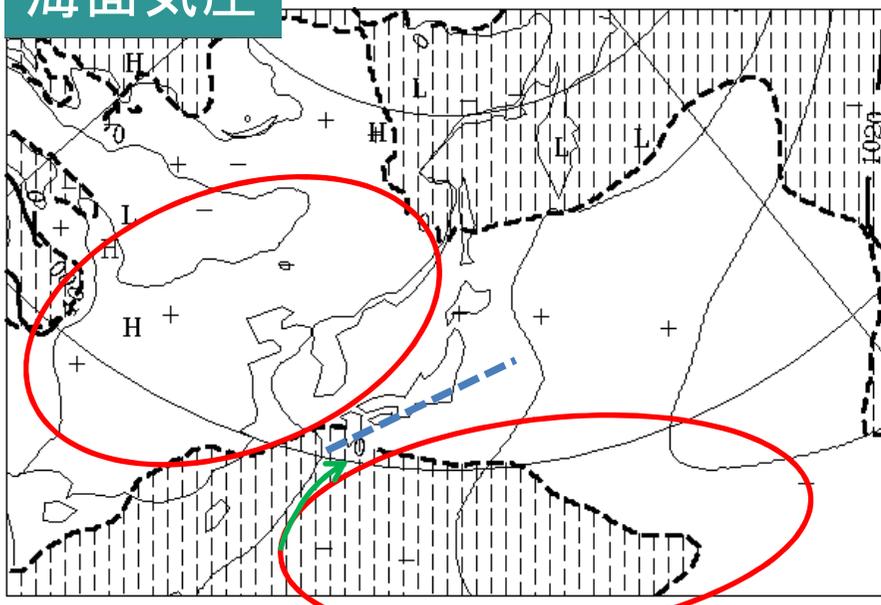
日本付近は、沖縄・奄美を中心
に正の高偏差確率50%以上
の領域に覆われる。
なお、日本付近では、スプレッド
の大きい領域がみられ、不
確実性が大きい。

850hPa気温



日本付近は全国的に正偏差。

海面気圧



本州付近は、相対的に気圧が低く、前線や湿った空気の影響をやや受けやすい。沖縄・奄美では、南の高気圧にやや覆われやすい。

想定される天候

- ・ 全国的に、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

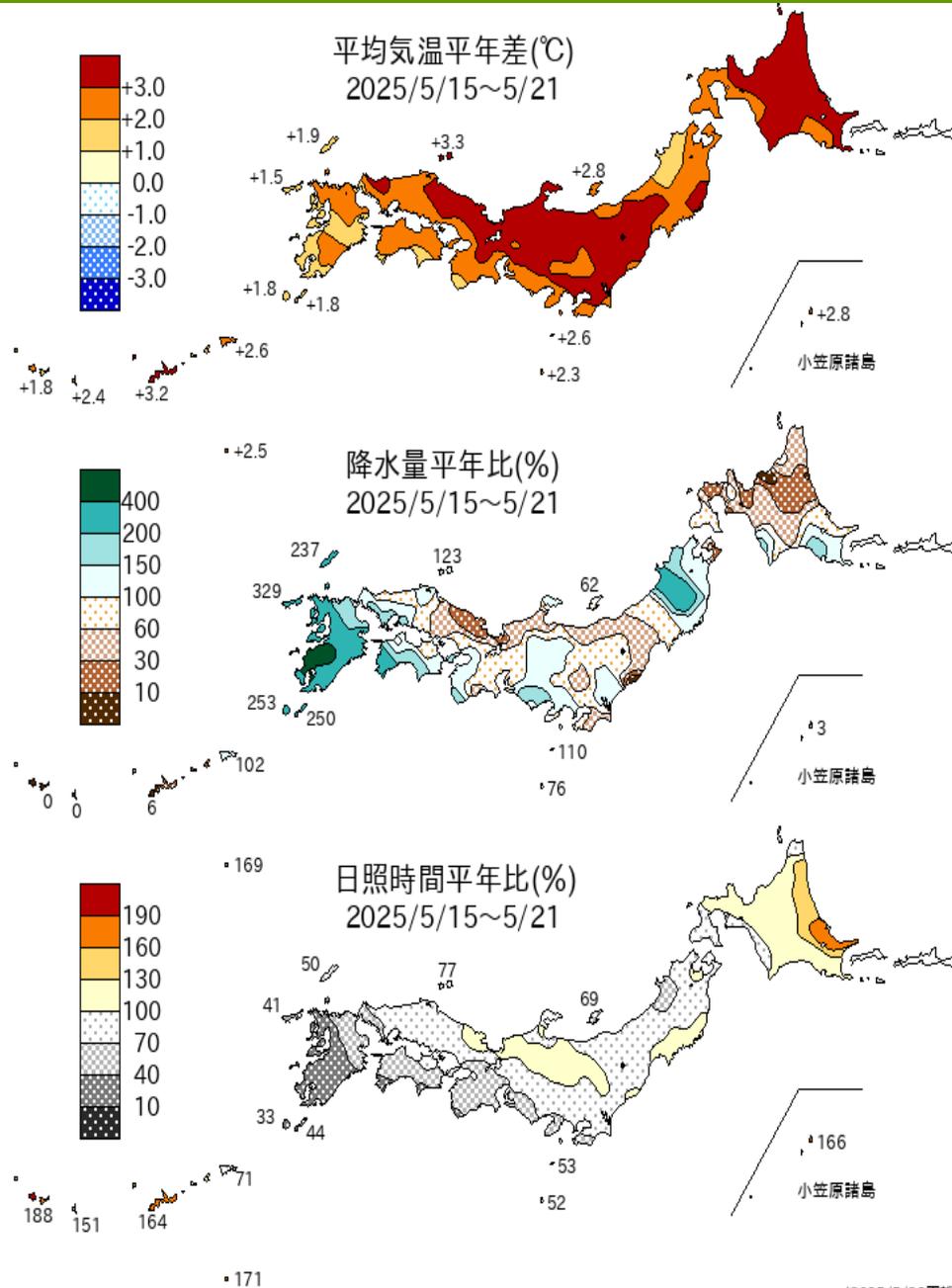
<気温>

全国的に暖かい空気に覆われやすい。

<天候>

東・西日本では、湿った空気の影響をやや受けやすいため、やや多雨・やや寡照。
沖縄・奄美では、湿った空気の影響をやや受けにくいいため、やや少雨・やや多照。

最近1週間の天候経過



最近1週間(5月15日~5月21日)は、北・東・西日本では、天気は数日の周期で変わりましたが、太平洋側を中心に高気圧の縁辺を回る湿った空気や前線の影響を受けやすかったため、日照時間は、平年を下回りました。降水量は、低気圧や前線の影響を受けにくかった北日本や東・西日本日本海側では平年を下回った所が多かった一方、東・西日本太平洋側では、平年を上回った所もありました。沖縄・奄美では、沖縄地方を中心に太平洋高気圧に覆われやすかったことから、降水量は平年を大きく下回り、日照時間は平年を大きく上回りました。気温は、全国的に南からの暖かく湿った空気が流れ込みやすかったため、平年を大きく上回った所が多くなりました。